

住吉市民病院の医療機能継承を

大阪市議会民生保健委 尾上議員が質問



尾上大阪市議

障害児の短期入所は全国的にも稀な機能であり、

また、参考人質疑での

来年3月末で廃止される大阪市立住吉市民病院（同市住之江区）の医療機能の継承をめぐって、大

府立急性期総合医療センターに移すことは「現実的ではない」と答えたところ指摘。「この答弁は極めて重い。住吉市民病院と同等の医療機能をもつ病院は、急性期総合医療センターとは別に必要だ」と述べました。

府本氏の答弁に触れつつ、「産科だけでなく小児科の入院床も含めるべき。新しい公立病院の開設までの期間も、産科と小児科の入院床をもってこそ、医療空白をつくらないということになる」と主張しました。

阪市議会民生保健委員会は5日、同病院の舟本仁一院長らの参考人質疑を行ったのに続き、8日の同委員会でも質疑が行われ、日本共産党の尾上康雄議員が質問に立ちました。

尾上氏は、参考人質疑で舟本氏が、住吉市民病院で行ってきた重症心身

尾上氏は、吉村洋文市長が住吉市民病院の跡地に市大付属病院を誘致し、担わせる小児・周産期医療の役割として「通常分娩ができる産科と二次医療が行える小児科」を挙げているが、「極めて不十分であり、住吉市民病院の機能を継承するとは言えない」と批判し

11月22日の大阪市南部医療保険協議会で、跡地に誘致する公的病院についての考え方を採決し、最低30床以上の小児・周産期病床を設けることを求めていると強調。「このことも重く受け止めるべき」と述べました。